

児童発達支援 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年3月13日

事業所名:つばめ療育館 しばた分館

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2	・パーテーションをどのように設置するか等随時職員間で検討している。 ・午睡室が狭いが今のところ工夫はできていない。 ・一期での支援を見学後、人数が多い中でも落ち着いた環境構成ができるよう、無暗に空間を広く使うのではなく、その都度話し合い工夫している。	・あおぞらコースで欠席がなかった場合は10名入れることになるが、スペースは足りないと思う。午睡室も狭いと保護者からコメントがあった。 ・リズム運動の際はどうしても親子の動きが活発になりぶつかりそうになるときもある。今後支援方法を工夫していく必要がある。
	②	職員の配置数は適切である	5	1		・平常時は良いが、職員が急に2人休んでしまうときに対応が難しいことがある。 ・職員が2人同時に休むのが難しいように思う。 急遽体調不良の職員が2人出たとしても支援に入れる職員が3人いると安心だと思う。 ・2人以上の急な欠勤等に対応できる状況ではない。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	4	・トイレの場所が少し離れており、トイレの認識がしづらいが、トイレトレーニングを開始するときにはトイレ前でおまるを使用するなど意識づけをしている。また、保護者にも説明をしている。	・バリアフリー対応が必要な利用児はいないが、今後ニーズがあった場合にどう対応するかが心配である。 ・玄関前にスロープがない。 ・玄関には段差があり、出た後も階段。スロープは設置されていない。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6			
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1	・時間を決めて話し合いの場を設ける。 ・目標設定・振り返りの共有は支援に関わる全員で行っている。その中でも重要事項は事務の方にも共有している。	・目標設定は特にしていないが、相談すべきことは随時相談している。ただ、ゆうやけコースが始まってからは相談の時間が取りにくい状況である。 ・個人的に、一人の利用者についてPDCAを考える時間をとれていない。症例検討会を開催して共有する場があると良い。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		・毎年行っている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2		・していない。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6		・非常勤勤務は、研修に参加できないが研修内を開けば教えていただけている。 ・UAマスタートレーナー取得のための研修に参加し、取得後も年に一回再受講がある。	・町村先生の研修を受けられることはありがたい。 ・支援の質を上げるための知識をみんなで共有したり、以前行っていた発達についての勉強会は、ゆうやけコースが始まったこともありできていない。
	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6			
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		・標準化された評価ツールは使用していないので、今後使っていただければいいと思う。

無回答1

無回答1

適切な支援の提供	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6			
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6			
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			・週ごとに担当制にして内容を確認し合っている。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			・特に乳児は適切な運動発達獲得のため同じ活動内容を繰り返すことがあるが、児童の特性に合わせて活動内容が固定化しないように工夫している。 ・工夫して考えてくれているが、固定化しても良いときもあるのかなと思う。 ・固定化しないようには配慮しているが、子どもの変化を捉えるためにもある程度固定化したプログラムも必要だと考える。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6			
適切な支援の提供	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			・打ち合わせをしていますが、細かい部分の役割分担ができていないこともあり、抜けがあることも時折あるので、明確にしていきたいと思う。 ・役割がなんとなく決まっているが、明確になっていないため、お休みの職員がいると漏れがある。役割分担の明確化、役割分担を固定せずに回していき共有できると良い。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			・齋藤OTから親子館での振り返り方法を聞いて方法を改善したところ、時間短縮できた。また、簡潔に伝えることができ、必要な視点も養われた気がする。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6			
	㉑	運動(感覚統合)は安全面に配慮して行われている	6			・遊具によっては、マットを敷いたり、環境面での配慮をしている。 ・安全面には配慮しており怪我等は発生していないが、予測できないことが起こるので、注意が必要だと思う。
	㉒	その子どもに合った課題が用意されている	6			・できる限りの努力はしているが、知識・経験不足により、課題の難易度の設定ができていない可能性がある。 日々の振り返り時などに、課題の設定が良いかどうか踏まえて相談していきたい。
	㉓	身体調和支援(マッサージ)について、技術の研鑽は行われている	6			・非常勤勤務のため、受講していないが、齋藤OTや受講した職員から指導を受けている。
関係機関や	㉔	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			・ふさわしいかはわかりませんが出席させてもらっている。会議に参加するととても勉強になり、ありがたい。
	㉕	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	1		・母子保健の関係者とはあまり接点がないように感じる。
	㉖	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	1		・医療ケアが必要な児・重症心身障害の児は現在利用していない。
	㉗	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	1		・医療ケアが必要な児・重症心身障害の児は現在利用していない。

無回答1

無回答1

保護者との連携	⑳	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		・必ず支援情報提供書を作成しお渡ししている。	
	㉑	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		・必ず支援情報提供書を作成しお渡ししている。	不明。
	㉒	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		・適宜連絡を取り支援状況を細かく共有している	不明。
	㉓	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4		
	㉔	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	2		・年1～2回会議に参加している。主に放課後等デイサービスが話題に上がっているが、児童の話も出てくると良いと思う。
保護者への説明責任等	㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6		・連絡帳に相談事など記載がある。必要に応じて個別で時間を設けて対応している。	・保護者の方とお話するようにしているが、まだ十分ではないと感じている。
	㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	2	・お子さんへの対応方法に悩む保護者には適宜アドバイスや関わり方を書いた用紙を渡して説明している。	・月1回斎藤OTが来てくれているが、しばたの職員でもできることはないか、検討していきたい。
	㉗	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			
	㉘	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6			
	㉙	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6			・保護者の方の悩みを聞き切れていないように思うので、積極的にお話を聞いていきたいと思う。
	㉚	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	1	・制作や上映会などを企画し、交流の場を設けている。 ・一年を振り返る会を開き、茶話会を設けて交流を図れたことがよかった。 ・保護者会等は開催していないが、お昼の休憩時間に自由参加のイベント(ちよきちよきクラブ、クリスマスツリー制作)を開催したり、お子さんの成長を振り返る会などを開催し、保護者同士の連携が深まるような企画を行っている。	・今年度から保護者と職員の関わり、保護者同士の関わりを増やすためにイベントを行っているが、まだ十分ではないと思うので、継続していきたい。
	㉛	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6			
	㉜	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1	・おたよりを毎月発行している。	
	㉝	個人情報の取扱いに十分注意している	6			
	㉞	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6			
㉟	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2		・毎月療育体験イベントを実施しているが、地域住民の招待等は行っていない。	

無回答2

無回答1

非常時等の対応	④④	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	3	・すくらむさん・あおの風さんと連携した避難訓練と、しばた分館のみでの避難訓練をそれぞれ行っている。実際に避難先となる第一中学校まで避難した。	・マニュアルは周知していない。 ・防犯・感染症に対する訓練等を行っていない。また、マニュアルの周知もしていない。	
	④⑤	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			・不審者対応訓練の必要性を感じている。	
	④⑥	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	4	2	・事前情報や連絡帳に記載があれば、確認している。 ・服薬・てんかん発作に関しては事前にシートに記入してもらい確認している。	・予防接種状況については詳しく確認していないところもある。	
	④⑦	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	2	・母から情報は得ているが、医師の指示所はない。 ・現在食物アレルギーのある子もいるが、指示書は特にもっていない。こちらから食事を提供することもないため、温めの際に食品が混ざらないようにということを注意して行っている。	・指示書はいただいていないので対応できていない。	無回答3
	④⑧	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		・サイボウズにあげて全員が確認できる状況にしている。		
	④⑨	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	2	・アンケートは実施したが、研修等は未実施。		無回答1
	④⑩	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	2	・口腔内マッサージの時、保護者の補助で体を押さえることはありますが、計画書には記載していません。 ・口腔内マッサージのときに保護者の方がお子さんに対し身体拘束を行うことはあるが、職員がお子さんに対し身体拘束を行うことは無い。		無回答1

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。